

福井県未記録の蝶、並びに異常型の蝶について

下野谷 豊一

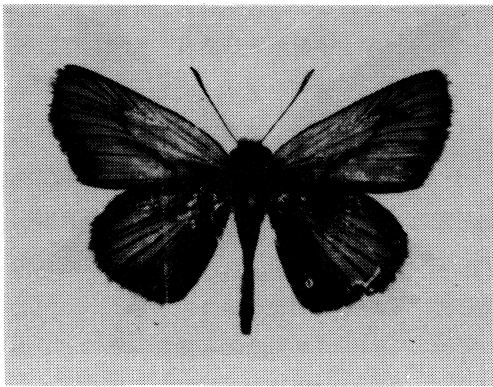
ここ数年間に福井県下より未記録の蝶、ならびに、興味ある異常型が採集されているので、以下にまとめて記録する。なお、発表に際しこれらの貴重な材料を採集し、公表を委ねられた諸氏に感謝申し上げる。

Thymelicus leoninus Butler スジグロチャ バネセセリ (福井県未記録)

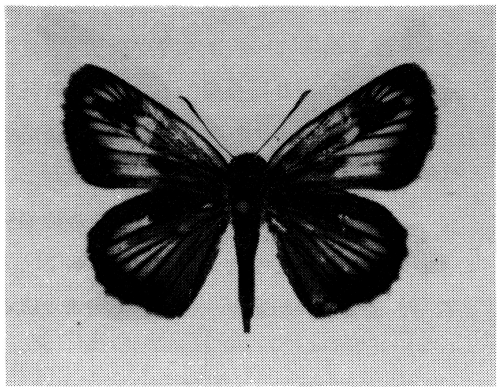
1♂ 大野郡和泉村後野 July 24. 1973. 高橋芳夫氏採集 (Fig. 1:表面)

1♂ 大野郡和泉村朝日前坂 July 22. 1975. 清水和巳氏採集

2♀ 大野郡和泉村下大納 Aug. 3. 1975. 吉田仁至氏採集 (Fig. 2:表面)



(Fig. 1 : 表面)



(Fig. 2 : 表面)

最初の1頭である後野の1♂は、翅表の黒色斑の発達が悪く、又、右前翅第4室中央に1本の余分な翅脈が認められ、左前翅の第6脈が垂外縁部でY字状に分枝している畸型の個体である。

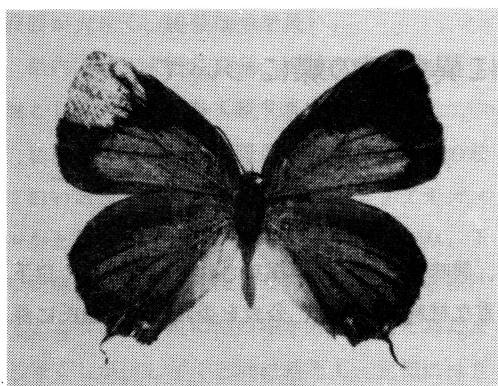
なお、ついでながら福井県のキバネセセリであるが、先に佐々治寛之氏(「昆虫と自然」Vol. IX, No.5)が、鳩ヶ湯より本県の新記録として記録されているが、同じ打波川上流の下小池で1♀を得ているので、古い記録であるがここに記録する。

1♀、大野市上打波下小池、Aug. 16. 1968. 下野谷豊一採集。この個体は、蛾の夜間採集の際、誘蛾灯に飛来したものである。

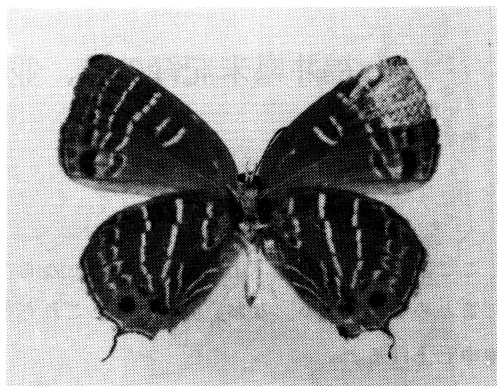
Wagimo signata Butler ウラミスジジミ (福井県未記録)

1♂ 坂井郡丸岡町竹田 July 26. 1971. 高柳氏採集 (Figs. 3:表面, 4:裏面)

ダイセンジジミと呼ばれている裏面の白色細条がまっ直ぐな、*quercivora*型の個体である。



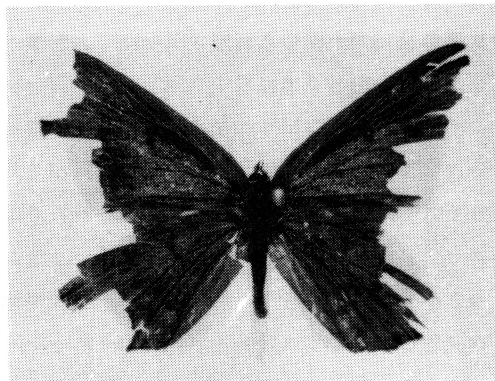
(Fig. 3 : 表面)



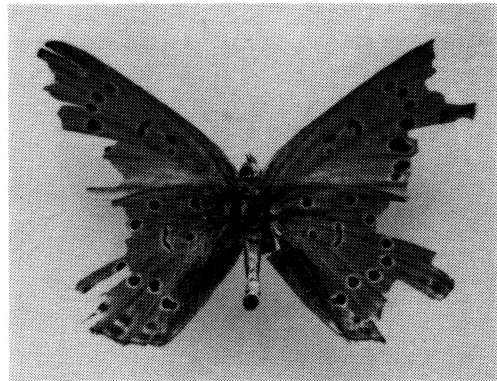
(Fig. 4 : 裏面)

Maculinea teleius Kazamoto Druce ゴマンジミ (福井県未記録)

1 ♀ 坂井郡丸岡町東山 July 1970. 伊藤重二氏採集 (Figs. 5 : 表面 , 6 : 裏面)



(Fig. 5 : 表面)



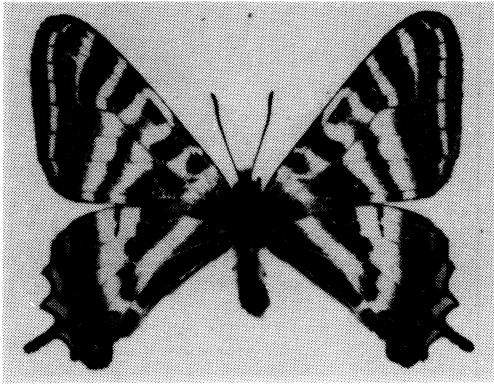
(Fig. 6 : 裏面)

ゴマンジミとしては大型の個体で、伊藤氏の話によると、同じ日に3頭採集し採集したときはどれも完全な個体であったが、展翅乾燥中の不注意により破損してしまい、1頭だけがかなり破損しているが残った由である。この東山のゴマンジミについては再確認のため多くの人が採集並に調査を行っているが、まだ再発見されていない。東山の最初に発見された地点のすぐ脇を北陸自動車道が通っており、採集されたときはこの自動車道の完成前であり、或は自道車道の工事により棲息場所が破壊されてしまったのかも知れない。もしそうであるなら大変に惜しいことである。残っている唯1頭の標本より推定すると、外観は本州中部に分布する *ssp. kazamoto* に最も近い個体であるので、一応この亜種名をあてておく。

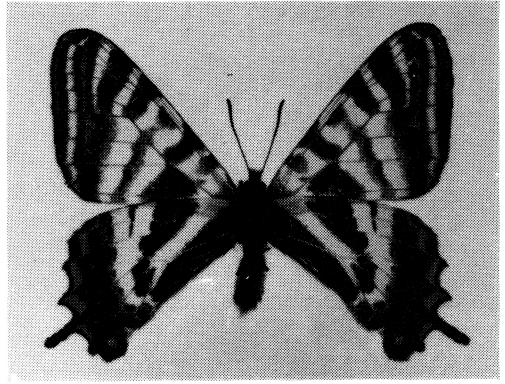
Luehdorfia japonica Leech ギフチョウ (異常型)

1♂ 南条郡仙山 April 15. 1974.

高橋芳夫採集 前翅長 31mm (Figs. 7:表面, 8:裏面)



(Fig. 7:表面)



(Fig. 8:裏面)

ギフチョウの異常型としては稀に見る見事な個体である。

前翅表面：中室基部の黄色斜帯と中室中央の2本の黄色帯の基部側のものが、前縁部と中室下端で融合しており、又、中室中央から1a~2室の黄色斜帯とその外側の黄色斜帯が前縁部で連なっており、いわゆるメガネ型の斑紋が正常のものとは逆位置になっている個体である。黄色帯は全体的に発達している。

前翅裏面も表面と同様の傾向であるが、黄色部の発達がさらに著しい。

後翅表面：中央の黄色帯は発達し巾広くなっており、このため第6・7室中央の黒色条は細くなっている。ところがこの黄色帯基部の即、後翅中央の黒色帯は強く発達し内縁部の黒色帯と肛角部で連っている。裏面と同様。

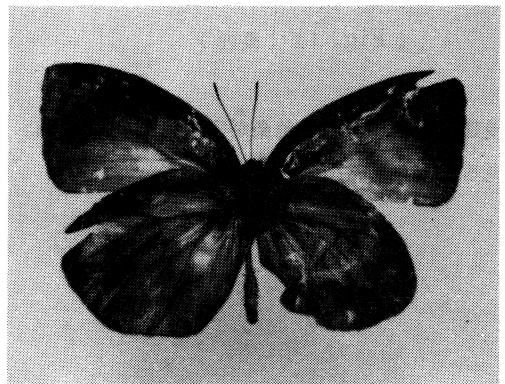
Eurema hecabe mandarina de l'Orza キチョウ (黒化異常型)

1♂ 坂井郡坂井町下蔵 Sep. 13. 1970.

伊藤省一氏採集 前翅長：22.5mm

(Fig. 9:裏面)

前後翅表裏の全面が黒褐色鱗でおおわれた黒化型の個体である。

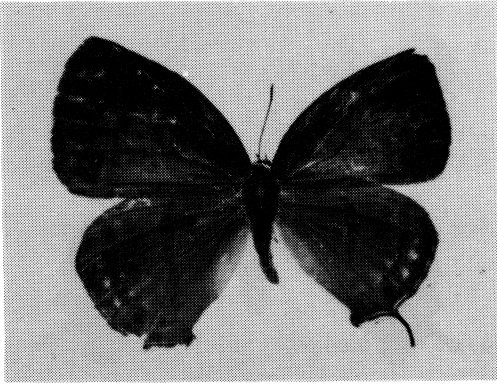


(Fig. 9:裏面)

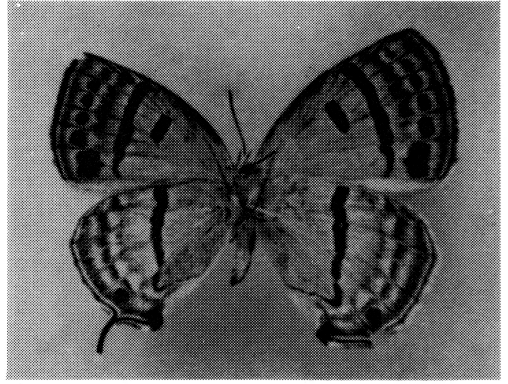
Antigius attilia Bremer ミズイロオナガシジミ (雌雄型)

1 ex. 大野市田野 June 29. 1975. 西村義信氏採集

前翅長：左翅-185mm, 右翅-173mm (Figs. 12:表面, 13:裏面)



(Fig. 12:表面)



(Fig. 13:裏面)

左翅が♀、右翅が♂の典型的な雌雄型で福井県下より雌雄型の蝶が記録されるのは、これが初めてである。腹部も左右にわかれている。

Neozephyrus taxila japonicus Murray ミドリシジミ (異常型)

1 ♀ (B型) 敦賀市池河内 July 20. 1975.

下野谷豊一採集 前翅長：22mm

前翅裏面亜外縁の白色条が外縁に向って広がった個体である。

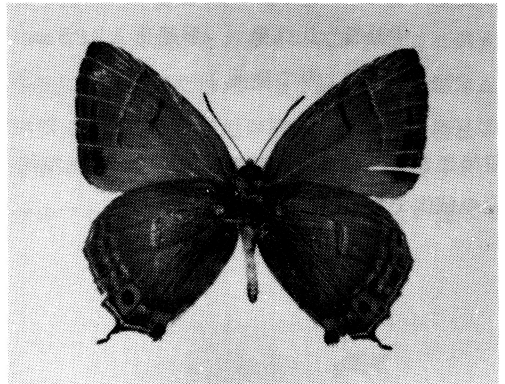
Favonius orientalis Murray オオミドリシジミ (異常型)

1 ♂ 池田町冠山 July 16. 1975.

下野谷豊一採集 前翅長：21mm

(Fig. 11:裏面)

後翅裏面亜外縁の白色条が完全に消失した稀に見る見事な異常型である。



(Fig. 11:裏面)

Lycaena phaeas daimio Seitz ベニシジミ(異常型)

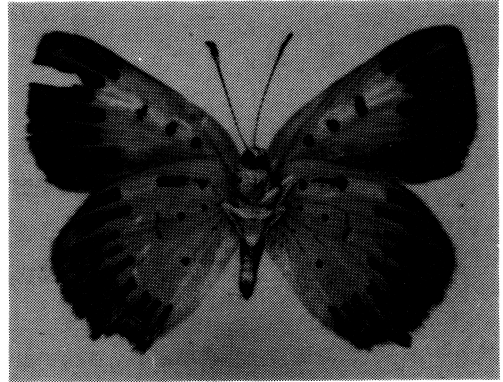
1♀ 坂井郡坂井町下蔵 Oct. 3. 1971.

伊藤省一氏採集 前翅長: 15.5 mm

(Fig. 10 : 裏面)

表面: 10月頃に発生する個体は春に発生するものと同じ様に橙色斑が発達するが、この個体は後翅亜外縁の橙色波状斑を除いて全面が黒化している。

裏面: 外縁沿いの黒色点列が外縁に向って拡がり、各室において黒色帯を形成している。又、第7室基部と中央の黒色点が互いに発達し連っている。



(Fig. 10 : 裏面)

日本鱗翅学会会員